

# IEC/TC110(フラットパネルディスプレイ)ソウル会議の報告

IEC/TC110ソウル会議の報告  
— TC110として初めてIEC総会に参加 —

## IEC/TC110の概要

TC110 (フラットパネルディスプレイ) (以下、FPDという。) は、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、有機ELといったフラットな薄型ディスプレイの国際標準化の専門委員会です。これまで、FPDについてはSC47Cで扱われており、TC47 (半導体) の傘下の委員会でしたが、2003年6月のSMB会議で、TC (Technical Committee) への格上げが決定しました。ノートPCやデジタルTVなどのデジタル家電向けの用途などでその成長が著しく、前年にブラウン管 (CRT) の売上げを上回ったこと、有機ELの標準化が始まり、SC47Cのカバレッジが上昇したこと、フラットパネルディスプレイの部材や機能が半導体とは異なっていること、などがその理由として挙げられています。

このTC110は、議長国、幹事国及び各ワーキンググループ (WG) のコンビナの全てを日本が担当しており、経済産業省をはじめ各関係企業からも、今後の貢献が期待されているTCです。

TC110の役員と組織図は、下記のとおりです。  
 国際議長：御子柴 茂生氏 (電気通信大学教授)  
 国際幹事：岩間 英雄氏 (日本アイビーエム インダストリアルソリューション)  
 国際副幹事：田中 宏典氏 (松下電器産業)  
 WG2 Convenor：石黒 勝己氏 (シャープ)  
 WG4 Convenor：篠田 傳氏 (富士通研究所)  
 PT62341-1f2 PL：柴田 賢一氏 (三洋電機)

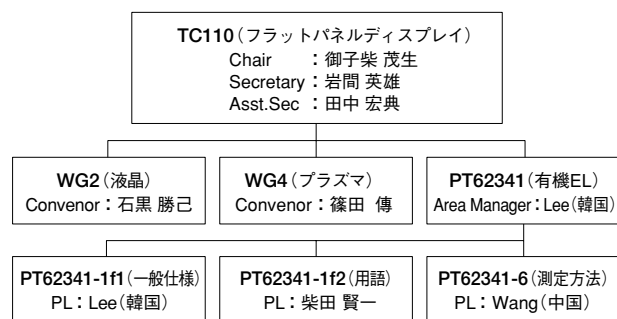


図1. IEC/TC110の組織図

## ソウル会議の概要

TC110の会議が、2004年10月18日 (月) から21日 (木) まで、韓国のソウルでIEC総会と同時期に開催されました。

TC110としては、2003年12月の福岡会議に次ぐ2回目の会議ですが、初めてIEC総会に参加した形になります。WGレベルでは、SIDと同時期に開催された2003年5月のシアトル会議以来の会議となりました。

今回のソウル会議では、FPDを製造している国が、日本、韓国、中国などアジアの各国に偏っており、米国や欧州などからの参加の動向について懸念がありました。米国、オランダ、フィンランドからも参加者がありました。参加者数は、以下のとおりです。

	日本	韓国	中国	その他
TC110	15	12	2	6
液晶ディスプレイ	3	5	2	2
プラズマディスプレイ	9	5	2	3
有機EL	9	9	5	2

各WG及びPT (プロジェクトチーム) の会議は、19日 (一部は18日の午前中) から精力的に行われました。

WG2の液晶ディスプレイでは、反射型LCDの測定方法について、日本で行ったラウンドロビンテスト (RRT)、日本の助力のもとに行われた韓国のRRTについて報告され、審議文書の進展をみました。また、Visual Inspectionについては、前回投票時のコメントについて審議し、2004年12月を目標にICDを作成することになり、動画測定方法、機械的強度測定方法についても、新規提案を行うこととなりました。



写真1. IEC / TC110の会議風景

SID : Society for Information Display (ディスプレイ関係の国際学会、会員数約6,000人) <http://www.sid.org/>

IECにおける審議プロセスの概略：NP (New Work Item Proposal) → RVN (Report of Voting NP) → CD (Committee Draft) → CDV (Committee Draft for Vote) → FDIS (Final Draft International Standard) → IS (International Standard)

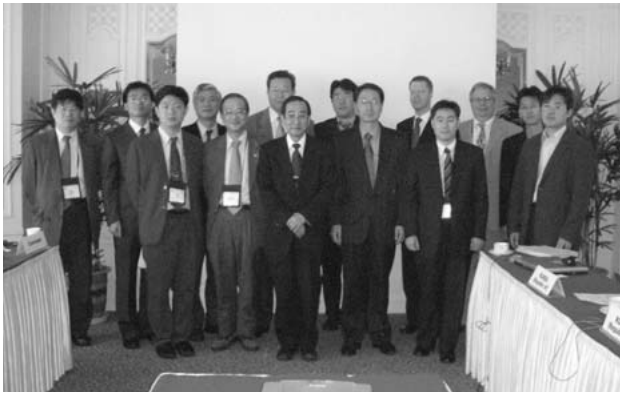


写真2. 液晶ディスプレイ (WG2) の会議

WG4のプラズマディスプレイでは、特に審議の遅れているMeasuring Methods (Quality) と環境試験の2つのCDに対するコメント審議を行うとともに、日本提案で新規文書 (NP) として承認された一般仕様についての検討が行われました。Measuring Methodsについては、点欠陥の測定方法について議論されましたが、合意が得られず、次回も引き続き議論を行うこととなり、環境試験方法は、各国コメントに基づいて原稿の修正が行われました。一般仕様はドイツ、韓国からのコメントについて検討され、NPに対しての各国からのコンセンサスが得られました。

有機ELのPT62341では、用語、一般仕様、測定方法についてそれぞれPT (プロジェクトチーム) があり、そのPTを束ねるエリア・マネージャは韓国が努めています。PTが活発な審議を行い、用語については、1CDに関してタイトル及び用語の定義の一部を変更し、2CD作成に向けた審議が行われました。一般仕様については、前回のシアトル会議で修正された文書を基に審議され、1CDの発行準備が進められました。測定方



写真3. プラズマディスプレイ (WG4) の会議



写真4. 有機EL (PT62341) の会議

法についても、シアトル会議で修正された文書を基に審議され、一部の測定項目については、将来の標準化項目として残されました。

他に、韓国やアメリカから、環境試験、Visual Qualityなどの標準化項目に関わる調査の提案があり、次回の会議以降、NPとして提案するか否かの審議を行うことになりました。

なお、前回のシアトル会議に引き続いて米国からの参加、また、オブザーバとしてフィンランドからも参加がありました。

WG/PT	リーダー	タイトル
WG2 (液晶)	日本	定格特性
	韓国	Visual Inspection
	(韓国)	(動画測定方法)
WG4 (プラズマ)	中国	測定方法
	オランダ	メカニカル・インタフェース
	韓国	電気的・インタフェース
	韓国	環境試験方法
	(日本)	(一般仕様)
PT62341 (有機EL)	韓国	一般仕様
	日本	用語
	中国	測定方法

(注) WG2の動画測定方法はソウル会議後に、WG4の一般仕様はソウル会議にて提案されたもの。

## ソウル会議の成果と課題

今回のソウル会議における最大の成果は、御子柴国際議長任期延長が承認されたことです。ただ、他のアジア諸国の技術力の進展も著しく、特許紛争の起きている今日、知的財産権も視野に入れた標準化活動が課題となっています。